

## 第2回「高野七口会」ウォーク ～黒河道調査～ 実施報告

実施日：平成25年12月22（土）

天気：曇り

参加者：濱田、山根、森脇、入谷、児玉（敬称略）

秋に降った大雨の影響がどれだけ残っているか、黒河道を高野山から定福寺まで下りながら調査することにした。

濱田・山根・児玉の3人は和歌山線に乗り高野口駅で下車、入谷車に拾ってもらい高野町役場へ、森脇は電車・ケーブル・バスで行き役場で落ち合った。

役場から歩き始めたが、この日の高野山上は約10cmの積雪。車道は滑りそうで上から押さえつけるように歩かなければならないし、新雪のところはこの程度でも結構抵抗があって非常に歩きにくい。念のため持って行ったスパッツが役に立った。



子継峠で一休み、記念の写真を撮る。なぜか地蔵が斜め後ろに大きく傾いていた。

子継峠からは下る一方となる。雪池山の分岐あたりまでは道は極端に狭く斜面に沿って傾いていて木々の間を縫うように歩かなければならないので普段でも歩きにくいですが、雪をかぶっているので地面に出ている木の根が見えず、うっかりその上に乗ると簡単に滑ってしまう。Hさんは2回ほど滑って片足を踏み外していた。



雪池山の分岐から少し下ったところは見晴らしもよく、橋本あたりの風景を遠望できる。雪は久保小学校の手前、標高にすると650m付近まで残っていた。ただ、この辺りまでは雪で見えにくかったこともあるが、大雨の影響は特に見られなかった。

予定通り、久保小学校に着く。吉川さんたち森林ボランティアの姿はなかったが、地元出身の人が一人いて、雑談をしながら昼食をとる。

昼食後、林道に出るまでコースは二つに分かれるが、戦場山には登らず中腹を迂回する太閤坂コースに行く。太閤坂も途中までは軽快に歩けたが、もともと道の途切れていた、耕作地に出る手前のコウヤマキの植林地帯で、斜面が大きくえぐられていた。



ようやく耕作地に出る。耕作地は枯草に覆われていて、季節が来ればはたして何か作られるのか、それともすでに放棄地となっているのか、にわかに判別はつかないが、真ん中に小高い小山がありその上に祠が載っているのが、大海に浮かぶ小島のように、ちょっと珍しい風景になっている。



林道に出て、そこを横切り市平まで下る道は概ね被害が無いものの、1か所1m位の幅で地面が水にさらわれ途切れてしまっていた。

市平集落の地藏堂で休憩をとる。イチョウの木の下には銀杏が落ちていて、上にもいくつか枯れ枝に残っている。炒って食べるからとMさんが拾い始めたので、皆で拾うやら棒で叩くやらして集め出した。



丹生川まで降りてくると、橋の向こう側の車道が大きくえぐられ、ガードレールが垂れ下がったままになっている光景を目の当たりにした。よく見ると、橋の上流にあるコンクリートの砂防ダムの車道側の片方が根元を侵食されたのか、完全に崩壊していて大水の威力のすごさを物語っている。車道は車の幅でアスファルト部分は残っているも

の、川側の地盤が崩れているので通行止めとなっていた。

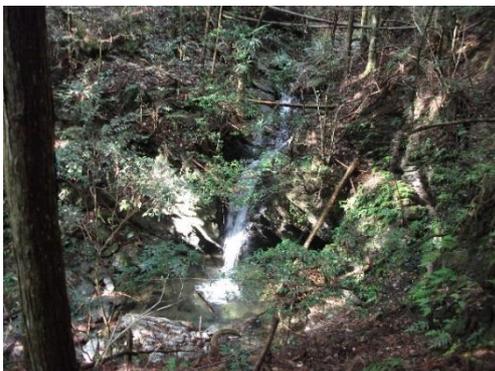
歩行には支障がないので車道を通り、ワラン谷の道に入る。



少し行っただけで、道が崩れているところに遭遇したので、被害の大きさが想像される。



案の定、取水場の手前まで歩行は困難を極めた。



白糸の？滝は流木・倒木があるものの、元の姿をとどめていた。良かった！



橋は流され、



道は崩れ、



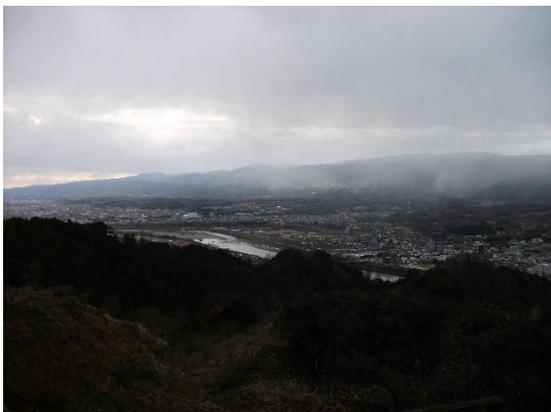
そんな中でも、流木から余裕のキノコ採り。



ようやく無事な橋を渡る。

取水場から明神ヶ田和までの登りのきついこと。各自のペースでバラバラに明神ヶ田和にたどり着く。やれやれやっと登りは終了の一休み。

そこからは、一瀉千里に・・・とはいかなくともルンルン気分で軽快に下る。大雨の影響は特に無さそうだ。



見晴らしの良い14番観音の祠から紀ノ川を望む風景も、雲がかかって独特の風情を醸し出している。



無事、定福寺に到着して、調査ウォークを終えた。

この後、紀伊清水駅まで歩いて池田会長の車を待ち、高野口で反省会を催した。

乾杯！！で本日の予定すべて完了。